

令和5年度 第1回 白山市総合教育会議

日 時 令和5年7月10日（月）午後3時

場 所 白山市役所4階 402会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 会議事項

(1) 世界ジオパーク認定に伴うジオパーク学習について

・ ・別添1、別添2

(2) 中学校部活動の地域連携及び地域クラブへの移行について

・ ・別添3

(3) その他

4 閉 会

総合教育会議の意見交換等について

学校指導 課

○意見交換テーマ

テーマ	世界ジオパーク認定に伴うジオパーク学習について
内 容	<p>5月24日に白山手取川ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定されました。</p> <p>世界ジオパークの認定には、ジオパーク学習が重要な位置をしめることから、学校教育においても引き続きジオパーク学習を継続して進めるとともに、次回審査に向け新たな視点での取り組みが求められることから、今後のジオパーク学習について意見を交換する。</p>
具体的説明	<p>1 現在の取り組み</p> <p>①SDGs 白山手取川ジオパーク推進事業 ②感性のびのび合宿推進事業 ③ジオパーク遠足 ④白山手取川ジオパーク木育推進事業 ※それぞれの事業内容は別紙のとおり</p> <p>2 新たな視点の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白山を最高峰とする山地帯から流れ出る河川の侵食、堆積作用によって創られた沖積平野や海岸線に続く砂丘地など市内全域の地形の学習。 ・ 山岳地帯のブナ林やカタクリ、丘陵地のハマナスなど、白山の恵みで育む動植物の学習 ・ 白山の水が作り出す農業や酒、醤油、味噌などの発酵業、これらを支えた市民が作り出したおかえり祭りやほうらい祭りなど、ジオパークの恵みの学習。

世界ジオパーク認定に伴うジオパーク学習について

1. SDGs 白山手取川ジオパーク推進事業

(1) 目的

白山手取川ジオパークの魅力や地域の成り立ちとSDGsを関連付けた研究に先進的に取り組み、本市の良さを生かした教育活動を行う。また、世界、日本ジオパークの審査要件となるような継続性のある取組を推進する。

(2) 対象校：市内全小中学校（小学校18校、中学校8校、小・中併設校1校）

(3) 実施内容

- ・白山手取川ジオパークの価値や地域のよさを発信するリーフレットの作成
- ・手取川の環境について、現地調査や学習会を行い、自分たちにできることを実践・発信
- ・登校時のクリーン活動や環境教育講演会、海岸清掃等、環境保全について考える学習

2. 感性のびのびジオパーク遠足推進事業

(1) 目的

市内各地域のジオサイトの見学及び体験等を行うことで、白山手取川ジオパークについての理解を深め、本市の魅力を見つめ直し、郷土愛を深める機会とする。

(2) 令和5年度対象校：千代野小、美川小、湊小、朝日小、広陽小、鳥越小

※小学校3年生～小学校6年生のうちの1学年

※上記対象校以外も実施可能

(3) 実施内容

白山市内のジオサイトの見学を含む「ジオパーク学習モデルコース」（別紙のR5年度ジオパーク学習モデルコース）を利用して遠足を行う。

ジオパーク学習支援員等から、ジオサイト及び現地での体験活動の説明等を聞く。

3. 感性のびのび合宿推進事業

(1) 目的

白山手取川ジオパークを中心とした自然の中で、自然や生命の尊さ、自主・自立の精神、協力することの大切さを学ぶ。

(2) 対象：市内小学校の6年生または5年生（卒業までに1回とする。）

(3) 実施内容

- ・三方岩岳登山、白抜山登山
- ・イワナつかみ、川遊び
- ・オリエンテーリング、ウォークラリー、追跡ハイク
- ・キャンプファイヤー など

4. 白山手取川ジオパーク木育推進事業

(1) 目的

白山市の森林に興味を持ち、木への親しみや木の文化への理解を深める。

(2) 対象校：松任地域の小学校で令和5年度から令和7年度の間、試行する。（5年生で実施）

令和5年度対象校：松任小、松陽小、松南小

(3) 実施内容

市内の林業、木材等に関する事業者の指導の下、森林や林業、木材等に対する理解を深める学習を実施する。

- ・水源の森を知る（白山ろくの森林や林業、木材の魅力等の学習）
- ・木を使った体験活動（木製品の魅力の体験学習）

5. その他

- ・白山市の社会科資料集を活用し、手取川扇状地を流れる七か用水の歴史や役割について学ぶ。（4年生）

総合教育会議の意見交換等について

生涯学習 課

○意見交換テーマ

テーマ	世界ジオパーク認定に伴うジオパーク学習について
内 容	ジオパーク学習を進める上で、社会教育・生涯学習においても子どもからおとなまで幅広い年齢層を対象として学習の機会を持つことはもとより、それらの学習の深化や広がり・発信等を体系立てる必要がある。
具体的説明	<p>(現在の取り組み事業 (生涯学習課関係))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感性のびのびジオ・サタデー 内容：白山手取川ジオパークの「水と人々の関わり」をテーマとした体験学習 (日帰り、年6回程度) 対象：小学4～6年生 (各回15人程度) ・野外体験活動参加費用等助成 内容：市内施設が開催の野外活動プログラムの参加費を助成 (参加費の2分の1、上限4000円) 対象：小中学生 ・はくさん学び舎講座 内容：市内の豊かな自然や多様な歴史・文化等について座学と現地見学で学習 (4回程のシリーズ) 対象：一般 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオ・サタデーの深化版 (ジオサタリーダー育成) ・野外体験活動参加費助成の対象の選抜 (ジオ対象) ・学習講座のテーマの特化 (ジオ学習)

世界ジオパーク認定に伴うジオパーク学習について（生涯学習課補足資料）

1 感性のびのびジオ・サタデー

(1) 目的

市内各地域の自然や文化、歴史への理解を深め、白山手取川ジオパークを通じた「水と人々の関わり」をテーマとした体験学習を実施することで、本物にふれ合う感動を味わい、楽しさを体感することで、子どもたちが豊かな感性を育み成長することに寄与する。

(2) 対象

小学4年生～6年生 各回15人程度

(3) 内容

白山手取川ジオパークの「水と人々の関わり」をテーマとした日帰り・年6回程度の体験学習

- ・滝巡りトレッキング、革細工体験、伏流水巡り、海岸の石探し、湧き水巡り、河原の石探し、古地図散策、スノートレッキングなど
- ・参加者は「はがきニュース」を作成し、ふりかえりと情報共有を図る。

(4) 今後について

自然や文化、歴史により深く親しみ学ぶ体験活動の内容とした「ジオサタデー」育成を新たに図り、小学生だけではなく、中高生等若い世代を対象とした事業に拡充する。

- ・中高生をサポートスタッフとして育成
- ・多くの体験を指導できるジオスペシャルガイドの誕生
- ・中学、高校の在学期間での活動への参加（ジオ部）

2 野外体験活動参加費用等助成

(1) 目的

本市の豊かな自然に親しむ機会を増やし、自然環境に対する理解と関心を深め、その健全な育成を図るために市内小中学生に対し、野外体験活動の参加費用の一部を助成する。

(2) 対象事業

石川県立白山青年の家、石川県立白山ろく少年自然の家、市内で野外活動を行う団体が開催する事業のうち市長が認めた事業

- ・いしかわっ子探検隊、Let's Go 家族でチャレンジ（白山青年の家）、かもしかクラブ★、家族でエンジョイ（白山ろく少年自然の家）、シーサイドキャンプ（白山市シーサイドキャンプ実行委員会）など

(3) 対象

市内在住、または通学する小中学生

(3) 助成金額

参加費用の2分の1に相当する額で4,000円限度

(4) 今後について

ジオパーク学習と関わりの強い活動に助成対象を選定することで、参加にあたりジオパークをより意識できるようにする。

- ・補助要綱の見直し

3 はくさん学び舎講座

(1) 目的

市内の豊かな自然や文化、歴史について、特定のテーマにおいて知識を深め、その魅力を再認識、再発見し、発信につなげていくことを目的とする。

(2) 対象

市民20人程度（4回程度のいずれの回も受講できる人）

(3) 内容

白山市の資源について座学と現地研修等、3～4回の講座で学習する。

- ・白山菊酒（平成28年度～30年度）、白山市の発酵文化（令和元年度）、白山市のハーブ（令和元年度～2年度）、白山市の伝統工芸（令和4年度）

(4) 今後について

白山手取川ジオパークに沿ったテーマで学習内容を特化させる。

～自然の財産を活かして持続可能な地域づくりを～

自然とのかかわりのなかで育んだ人々の営みを伝える（ふるさと教育）

(5) 関連事業

水の旅学（白山手取川ジオパーク推進協議会）

- ・令和4年度

10月22日	真鍋真氏(国立科学博物館副館長)	恐竜化石から過去、現在と未来の地球を考える
12月3日	川瀬宏明氏 (気象庁気象研究所)	温暖化が進む地球～将来、北陸の雪は減る?～
3月4日	金沢工業大学産学連携局	環境負荷軽減に向けた金沢工業大学の教育研究実践

総合教育会議の意見交換等について

学校指導 課

○意見交換テーマ

テーマ	中学校部活動の地域連携及び地域クラブへの移行について
内 容	<p>少子化の中、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保するとともに、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下で、地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することに対する意見交換を行う。</p>
具体的説明	<p>1 国が進める中学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインについて</p> <p>令和4年12月に国は部活動の地域移行について、令和5年度から令和7年度を改革推進期間とし、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備する。とするガイドラインをまとめ、中学校部活動の地域連携と地域クラブへの移行を進めることとしました。</p> <p>【資料1】</p> <p>2 白山市中学校部活動の地域連携及び地域クラブの在り方検討会の報告及び意見について</p> <p>【資料2～6】</p> <p>3 今後のスケジュールについて</p> <p>【資料7】</p>

- 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成30年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を提示。
- 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

※ I は中学生を主な対象とし、高校生も原則適用。II～VIは公立中学校の生徒を主な対象とし、高校や私学は実情に応じて取り組むことが望ましい。

I 学校部活動

教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す。

(主な内容)

- ・ 教師の部活動への関与について、法令等に基づき業務改善や勤務管理
- ・ 部活動指導員や外部指導者を確保
- ・ 心身の健康管理・事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶の徹底
- ・ 週当たり2日以上での休養日の設定（平日1日、週末1日）
- ・ 部活動に強制的に加入させることがないようにする
- ・ 地方公共団体等は、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力の下、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進める

II 新たな地域クラブ活動

学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。

(主な内容)

- ・ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実
- ・ 地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備
- ・ 指導者資格等による質の高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンクの整備、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業
- ・ 競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に適したプログラムの確保
- ・ 休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定
- ・ 公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減・円滑な利用促進
- ・ 困窮家庭への支援

III 学校部活動の地域連携や

地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。

(主な内容)

- ・ まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
 - ・ 平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
 - ・ ①市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体が取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める
- ※ 地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保

- ・ 令和5年度から令和7年度までの3年間で3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組むこと、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す
- ・ 都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

IV 大会等の在り方の見直し

学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者の二ーズ等に準じた大会等の運営の在り方を示す。

(主な内容)

- ・ 大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるよう見直し
- ・ ※日本中体連は令和5年度から大会への参加を承認、その着実な実施できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保
- ・ 全国大会の在り方の見直し（開催回数・精選、複数の活動を経験したい生徒等の二ーズに対応した機会を設ける等）

白山市中学校部活動と地域クラブの在り方検討会(報告)

1 開催目的

白山市中学校部活動と地域クラブの在り方協議会の開催に向け、中学校部活動や中学校教諭の現状を関係者に報告し、地域団体やPTAの現状等について意見を聴収した。

2 開催日

令和5年6月23日(金)

3 報告概要

- ① スポーツ庁、文化庁が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の概要説明【資料1参照】
- ② 中学校部活動の現況【資料3参照】
 - ・団体スポーツで1校では大会に参加できない活動が増加。
 - ・令和5年4月より全校で部活動加入を任意とした。
 - ・中体連の大会は、令和5年度より地域クラブの参加が認められた。
 - ・地域クラブへの加入は、スポーツで165名、文化で14名。無所属は130名。
- ③ 教員アンケートの状況【資料4参照】
 - ・指導経験がない又は少ない活動の顧問をしている教員が約6割いる。
 - ・休日に勤務校の生徒が参加する活動に参加したい顧問は約2割にとどまる。
- ④ 近隣市町の取り組み状況【資料5参照】
- ⑤ 中学校部活動の地域連携(提案)
 - ・部活動指導員や外部指導員の受け入れていくことで、新たな地域クラブの発足を促したい。
- ⑥ 新たな地域クラブ活動の考え方(提案)
 - ・「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、令和5年9月より実証試験を行いたい。
 - ・生涯学習の一環としての地域活動として、地域連携と地域クラブへの移行。

4 委員からの意見

【資料6参照】

中学校部活動の状況（令和5年5月1日 時点）

学校名	部活動 No 名称	部員数				休日の部活動の状況			指導者				現在の地域の協力の状況 (左記で「その他」と回答した詳細)				
		1年	2年	3年	合計	ほぼ毎週実施	原則実施しない	大会等の前のみ	顧問数 (人)	部活動指導員 (各学校1名)	白山市地域指導者 (外部指導員)	その他	保護者の協力	民間団体の協力	地域団体と連携	協力団体の名称	
松任中学校	21	サッカー部	15	17	15	47	○			2	0	0	0				
北星中学校	11	サッカー部	13	12	12	37	○			2							
光野中学校	3	サッカー部	3	4	9	16	○			2	0	0	0				
笠間中学校	1	サッカー部	7	3	7	17	○			2	0	1	0				
美川中学校	2	サッカー部	6	12	9	27	○			2	0	1	0				
北辰中学校	9	サッカー部	4	8	6	18	○			2	0	0	0				
松任中学校	22	野球	8	4	12	24	○			2							
北星中学校	3	野球部	10	10	4	24	○			2							
光野中学校	1	野球部	5	0	6	11	○			1	0	0	0				
笠間中学校	2	野球部	2	2	4	8	○			2	0	0	0				
美川中学校	1	野球	1	2	8	11	○			2	0	0	0				
鶴来中学校	7	野球部	0	4	11	15	○			2	0	0	0				
北辰中学校	5	野球部	5	0	10	15	○			2	0	0	0	○			野球部保護者会
松任中学校	24	ソフトボール	6	5	6	17	○			2	1	1					
北星中学校	12	ソフトボール部	2	3	6	11	○			2							
松任中学校	11	男子 バスケットボール	12	12	20	44	○			2	0	0	0				
松任中学校	12	女子 バスケットボール	10	10	17	37	○			2	0	0	0				
北星中学校	7	男子バスケットボール部	7	7	2	16	○			3	1						
北星中学校	8	女子バスケットボール部	7	6	7	20	○			(3)							
光野中学校	6	バスケットボール部	12	12	10	34	○			1	1	0	0				
美川中学校	12	男子バスケットボール	2	2	16	20	○			3	0	1	0				
美川中学校	13	女子バスケットボール	3	1	6	10	○			3	0	2	0				
鶴来中学校	5	男子バスケットボール部	7	9	12	28	○			1	0	0	0				
鶴来中学校	6	女子バスケットボール部	7	4	7	18	○			1	0	0	0				
北辰中学校	6	男子バスケット部	8	10	7	25	○			2	1	0	0				
松任中学校	13	男子 バレーボール	7	13	4	24	○			2		1		○			
松任中学校	14	女子 バレーボール	13	10	8	31	○			2		1					
北星中学校	6	(女子)バレーボール部	12	6	15	33	○			2							
光野中学校	7	男子バレーボール部	7	4	4	15	○			1	0	1	1	○			男子バレーボール部保護者会
光野中学校	8	女子バレーボール部	10	10	14	34	○			2	0	0	1	○			現在の部員の保護者
笠間中学校	3	男子バレー部	7	12	7	26	○			2	0	2	0				
笠間中学校	4	女子バレー部	8	8	12	28	○			2	0	1	0				
美川中学校	8	バレーボール	11	11	11	33	○			2	1	0	0				
北辰中学校	8	女子バレーボール部	7	5	4	16	○			2	0	1	0				
鶴来中学校	9	バレーボール部	5	5	8	18	○			2	0	0	0				
松任中学校	23	ハンドボール	11	4	10	25	○			2	0	1				○	白山市ハンドボール協会
団体スポーツ計			260	247	326	833				68	5	14	2				
松任中学校	7	男子 陸上	6	4	7	17	○			2		2					
松任中学校	8	女子 陸上	10	0	7	17	○			2		2					
北星中学校	1	男子陸上競技部	7	9	1	17				2							
北星中学校	2	女子陸上競技部	2	5	4	11	○			(2)							
光野中学校	2	陸上部	24	7	15	46	○			2	0	0	0				
美川中学校	3	陸上	15	8	6	29	○			2	0	0	0				
鶴来中学校	1	陸上競技部	16	18	5	39	○			2	0	0	0				
北辰中学校	1	陸上部	11	12	16	39	○			3	0	0	0			○	白山ジュニア
鳥越中学校	4	陸上部	9	9	2	20	○			2	1	0	0				

中学校部活動の状況（令和5年5月1日時点）

学校名	部活動		部員数				休日の部活動の状況			指導者				現在の地域の協力の状況 (左記で「その他」と回答した詳細)			
			1年	2年	3年	合計	ほぼ毎週実施	原則実施しない	大会等の前のみ	顧問数 (人)	部活動指導員 (各学校1名)	白山市地域指導者 (外部指導員)	その他	保護者の協力	民間団体の協力	地域団体と連携	協力団体の名称
	No	名称															
白嶺中学校	1	陸上部	2	7	5	14	○			2							
松任中学校	26	剣道	17	3	4	24	○			2			1	○			少年剣道教室
北星中学校	13	剣道部	9	10	7	26	○			2		2		○			
光野中学校	10	剣道部	5	3	6	14	○			1	0	1	1				本校の相談員
笠間中学校	8	剣道部	2	10	8	20	○			1	0	2	0				
美川中学校	5	剣道部	4	7	5	16	○			2	0	0	0				
鶴来中学校	4	剣道部	0	7	11	18	○			2	1	0	0				
鳥越中学校	1	剣道部	0	1	2	3		○		2	1	0	1			○	鳥越少年剣道教室
松任中学校	25	柔道	5	4	2	11	○			2	1	0	0				
笠間中学校	7	柔道部	4	7	10	21	○			2	1	0	0				
鶴来中学校	8	柔道部	5	4	2	11	○			1	0	0	1			○	鶴来道場
北辰中学校	7	柔道部	9	1	7	17	○			2	0	3	0				
松任中学校	17	男子 ソフトテニス	12	10	7	29	○			2	0	1					
松任中学校	18	女子 ソフトテニス	20	18	7	45	○			2	0	1	0				
北星中学校	4	男子ソフトテニス部	16	11	19	46	○			3							
北星中学校	5	女子ソフトテニス部	6	9	19	34	○			(3)							
光野中学校	4	男子ソフトテニス部	0	7	4	11	○			1	0	0	0				
光野中学校	5	女子ソフトテニス部	1	6	11	18	○			1	0	0	0				
笠間中学校	5	ソフトテニス部	12	11	12	35	○			2	0	0	0				
美川中学校	10	男子ソフトテニス	6	8	2	16	○			3	0	0	0				
美川中学校	11	女子ソフトテニス	0	7	4	11	○			3	0	1	0				
鶴来中学校	3	ソフトテニス部	4	13	3	20	○			1	0	0	0				
北辰中学校	3	男子テニス部	25	5	19	49	○			2	0	1	0				
北辰中学校	4	女子テニス部	10	10	9	29	○			2	0	0	0				
松任中学校	19	男子 卓球	9	18	21	48	○			2	0	0	0				
松任中学校	20	女子 卓球	5	3	4	12	○			2	0	0	0				
北星中学校	14	男子卓球部	4	12	9	25	○			3		2					
北星中学校	15	女子卓球部	0	7	6	13	○			(3)		(2)					
美川中学校	6	男子卓球	10	5	5	20	○			3	0	1	0				
美川中学校	7	女子卓球	3	1	7	11	○			3	0	1	0				
笠間中学校	9	卓球部	7	10	8	25	○			2	0	0	0				
鳥越中学校	2	卓球部	11	8	5	24	○			2	0	0	0				
白嶺中学校	3	卓球部	5	3	1	9	○			3	1	2					
松任中学校	15	男子 バドミントン	7	6	4	17	○			2							
松任中学校	16	女子 バドミントン	4	13	4	21	○			2		1					
北星中学校	9	男子バドミントン部	5	17	16	38	○			3							
北星中学校	10	女子バドミントン部	11	11	6	28	○			(3)							
光野中学校	9	バドミントン部	13	12	13	38	○			2	0	1	0				
美川中学校	9	バドミントン	12	8	9	29	○			2	0	1	0			○	美川中バドミントン強化部
鳥越中学校	3	バドミントン部	0	0	7	7		○		2	0	0	0				
松任中学校	9	男子 水泳	9	5	12	26	○			2		1				○	スイミングアカデミー松任(一部生徒)
松任中学校	10	女子 水泳	8	3	5	16	○			2		1				○	スイミングアカデミー松任(一部生徒)
笠間中学校	6	水泳部	0	2	2	4		○		1	0	0	0				
美川中学校	4	水泳	6	8	6	20	○			2	0	0	0				
鶴来中学校	2	水泳部	3	3	8	14	○			1	0	0	0				
北辰中学校	2	水泳部	5	12	8	25	○			2	0	0	0				
白嶺中学校	2	水泳部	4	2	0	6	○			2		2					

中学校部活動の状況（令和5年5月1日時点）

学校名	部活動	部員数				休日の部活動の状況			指導者			現在の地域の協力の状況 (左記で「その他」と回答した詳細)		
		1年	2年	3年	合計	ほぼ毎週実施	原則実施しない	大会等の前のみ	顧問数 (人)	白山市地域指導者 (外部指導員)	その他	保護者の協力	民間団体の協力	地域団体と連携
No	名称													

生徒が参加する主な「スポーツ関係の地域・民間クラブ等」

松任中学校	白山能美ボーイズ（硬式野球）、スイミングアカデミー松任（水泳）、松任ジュニアバドミントン、川北クラブ（卓球）、蕪城剣道スポーツ少年団、北陸大学フィオリレ（サッカー）石川ハンドボールスクール、田中錬成塾（柔道）、エスポワール白山（サッカー）、パラオフトボールクラブ（サッカー）、ツエーゲン金沢U-15、金沢ヤングブルーウェイブ（硬式野球）、ビークス（サッカー）、石川中央ボーイズ（硬式野球）、FCサイバーステーション（サッカー）など
北星中学校	金沢サイバーステーションFC、石川中央ボーイズ、ビークス石川（サッカー）、白山リトルシニア、エスポワールFC、小松ボーイズ、ソフトボールGRAYS、ツエーゲン金沢、4THバスケットボールチーム、金沢ヤングブルーウェールズ、石川ジュニア（ラグビー）、GETT（硬式テニス）、C P F創（サッカー）、SEIRYO PEL
光野中学校	サッカー：ビークス白山、エスポワール白山、サイバーステーション 野球：金沢ヤング、石川中央ボーイズ テニス：ウエストヒルズ 水泳：スイミングアカデミー 他：バスケール、ダンス、バドミントン
笠間中学校	陸上クラブ、ビークス（サッカー）、FC小松（サッカー）、ツエーゲン（サッカー）
美川中学校	ビークス石川スポーツクラブ、エスポワール白山、ライオンパワー、リオベードラ（サッカー） 白山能美ボーイズ、白山リトルシニア（野球） フォース（バスケット） ALION Dance Academy（ダンス） 石川ジュニアフェンシングクラブ K's体職クラブ
鶴来中学校	ビークス石川（サッカー）、中央ボーイズ（野球）、白山リトルシニア（野球）、石川jr（ラグビー）、日本空手協会鳥越白嶺支部（空手） 空手道白山支部（空手）
北辰中学校	パラオフトボールクラブ（サッカー）、4thストリート（バスケットボール）、白山リトルシニア（野球）
鳥越中学校	野球クラブ（石川中央ボーイズ1）、野球クラブ（ダラーズ1） サッカークラブ（FCサザン1）、空手クラブ（千泉塾2）、剣道クラブ（鳥越剣道クラブ等）
白嶺中学校	

生徒が参加する主な「文化関係の地域・民間クラブ等」

松任中学校	ストナビダンススクール、和太鼓サスケ
北星中学校	日本舞踊ダンス
光野中学校	ピアノ、そろばん
笠間中学校	ピアノ教室
美川中学校	
鶴来中学校	
北辰中学校	前田敬子・田中勉（バレエ教室）
鳥越中学校	
白嶺中学校	

地域クラブとして参加した生徒

美川中学校	剣道 小松桜木剣正会	小松市 男子	1名
鶴来中学校	剣道 小松桜木剣正会	小松市 女子	3名
光野中学校	バレー LEAD ISHIKAWA	河北郡市 女子	1名
鶴来中学校	バレー LEAD ISHIKAWA	河北郡市 女子	1名

参考

野々市中学校	陸上 ゼブラン	金沢市 男子	1名
布水中学校	バド グラッソ	金沢市 女子	1名
布水中学校	バド shinshin	金沢市 男子	1名

中学総体にクラブ解禁

5競技に16チーム

7月に18競技で執戦が展開される石川県中学校総合体育大会（北國新聞社後援）の5競技に、地域スポーツクラブから16チームの出場が決定した。公立中の休日の部活動指導を教員以外に委ねる「地域移行」が進む中、今年度から地域クラブの出場が解禁された。部活動とクラブが垣根を越えて戦う初の舞台で、関係者は盛り上がりを見守る一方、部活の「行方」を危惧する声も出ている。

部活の「地域移行」受け

地域クラブの出場は、柔道（6チーム）（個人含み）が最多で、バドミントン5、剣道とソフトテニスが2、



県中学総体のバレーボールでプレーする選手—2022年7月、金沢市のいしかわ総合スポーツセンター

バスケットボールは1となった。サッカーはゼロだったが、これは中学生年代のクラブチーム（U-15）がユニ

部活動の「地域移行」は、スポーツ庁など国が主導する取り組みで、教員の負担軽減などを目的に導入された。こうした方針に合わせて、中体連に加盟する学校の部活動単位で日本一を決めてきた全国中学校大会（全中）についても、今年度から全国一斉に地域クラブが参加できるようになった。

都道府県によって対応はまちまちで、出場クラブが多い関西や東海ではクラブと中学校を完全に分けて予選を実施している。

石川県中体連は中学総体の2地区（加賀、能登）予選を前に地域クラブ10競技

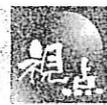
県中学総体に出場する地域クラブ

- 柔道（6チーム）
 - 能美柔道クラブ、岸川柔道教室、県立武道館、小松市柔道協会、中能登柔道教室、七尾市柔道協会
- バドミントン（5チーム）
 - shinshin（金沢）、小松ジュニア、加賀市ジュニア、寺井JBC、オールエイジジュニア（小松）
- ソフトテニス（2チーム）
 - JumpSTC（内灘）、能美Jr.S TARS
- 剣道（2チーム）
 - 小松桜木剣正会、社の中
- バレーボール（1チーム）
 - LEAD（津幡）

盛り上がり期待 力の差 不安の声

生徒の選択肢増 経済的負担も大きく

「部活動の地域移行」について、国は休日にとまらず平日にも拡大していく方針だ。これまで部活動は「学校教育の一環」として中学校の教員が指導してきたが、専門指導員を抱える地域クラブが受け皿となれば、教員の負担軽減も実現できる。



近年、少子化の影響ですでに「休部」状態の部活動も増えている。希望する部活に入れない中学生にとっては、地域クラブという新たな選択肢が出てくる。

ただ、デメリットもある。部活動は実費「無償」だったが、クラブは指導料に加え、交通費などの費用も必要となる。クラブ数は地域によってばらつきがあり、現状では田舎な移行が難しい。

48チームを認定し、競技ごとに地域クラブの参加条件を設けるなど準備を進め、ソフトボールは地域クラブの推薦枠1を設けたものの、希望チームはなかった。県中体連には参加資格指導する大黒英理さん(42)

は「子どもたちが多くの経験を積める。競技人口の拡大にもつながる」と歓迎する。

剣道の小松桜木剣正会では、加賀地区の予選会で女子団体優勝、男子団体準優勝、個人男女優勝の成績を収め、県中学総体に出場する。藤井勝司代表は「これまで剣道部がなかった中学の生徒にも出場の道が開ける」と話した。

一方、中学校側には戸惑いも見られる。教育的意義の大きい部活と強化優先のクラブでは、競技力の面で総じてクラブ側が優位にあるため、「部活動の弱体化が避けられない」との声は少なくない。

改革元年のスタートは運営側も手探りの状態というのが実情で、石川県中体連は「課題を解決しながら、よりよいスポーツ振興を図っていく」としている。

中学校部活動地域移行に関するアンケート（集計）

調査日 令和4年10月31日

国は、部活動の地域移行に関する検討会議の提言を受けて、休日の部活動の地域移行について令和5年度から令和7年度を改革集中期間として取り組みを進めています。

白山市においても、この改革集中期間における取組の検討を進めています。

顧問を担当される教員の皆様には下記のアンケートにご協力をお願いします

- Q1 学校名を記載してください **回答者172名**
- Q2 あなたは今、いくつの部活動の顧問を担当していますか
担当している部活動数を記載してください。
0部活→3名 1部活→140名 2部活→26名 3部活→3名
- Q3 上記のうち、主に担当している部活動について該当する番号を1つ記入してください。
- ① 長く指導経験のある部活動を担当している。 **76名(44%)**
- ② 指導経験、活動経験のない(又は少ない)部活動を担当している **96名(56%)**
- Q4 平日の部活動終了後の勤務時間について、該当するものを1つ記入してください。
- ① ほぼ毎日、すぐ帰宅することができる。 **24名(14%)**
- ② 概ね1時間以内の仕事をしてから帰宅する **57名(33%)**
- ③ 概ね2時間以内の仕事をしてから帰宅する **33名(19%)**
- ④ 概ね2時間以上の仕事をしてから帰宅する **58名(34%)**
- Q5 休日の部活動が地域に移行した場合、あなたはどのように思いますか
(部活動の地域移行は、地域でのスポーツ・文化活動として扱われます。
教員が参加する場合、勤務時間に含まれない活動となると考えられています。)
- ① 休日は、勤務校の生徒が参加する活動に参加したい **36名(21%)**
- ② 休日は、居住地周辺等の活動に参加したい **23名(13%)**
- ③ 休日は、学校業務以外の活動には参加したくない **113名(66%)**

2020年(土) 16日 15時

中学部活 地域移行の受け皿に

能美にソフトテニスクラブ

女子中学生を対象にしたソフトテニスの新たな地域クラブが能美市で今春、発足した。全国大会でも活躍する小学生の能美ジュニアソフトテニスクラブを母体にした「能美ジュニアスターズ」部活動の地域への移行に伴って県内の生徒を受け入れ、企業などから支援を得て活動する。競技力の向上を目指しながら、人としての成長も後押ししている。(平野誠也)



ジュニアスターズは、ジュニアソフトテニスの創設者である市浜小学校教諭でもある北本和之さん(左)がボランティアとして主宰する。メンバーは現在、一年生二人、二年生四人、三年生一人の計七人。うち六人が同市寺井中、一人が内灘町内灘中の生徒だ。週末を含む週五日、粟生運動公園を中心に市内の数为所で練習。北本さんはジュニアソフトテニス入部を指導する。発足の背景には、公立中

指導者、練習場確保 国が推進も課題

公立中学校の部活の地域移行は、国が本年度から3年間を「改革推進期間」とし、まずは休日の地域での活動環境を整えるよう全国の自治体や関係者に求めている。少子化が進む中での活動維持や教員の負担軽減などが狙いで、地域の実情に応じた柔軟な取り組みを促すものの、指導者や練習場所の確保などの課題も各地で指摘されている。

能美市は、競技力向上に向けて2020年度からソフトボール、ハンドボール、陸上の3競技で地域移行に着手。21年度から国の方針に沿った事業に衣替えし、本年度は7競技に対象を広げる。

市教委によると、これまでに指導者や練習場所の確保のほか、活動費の負担のあり方や生徒の送迎手段確保などが課題となっており、今後は各種の活動実績がある市ふるさと振興公社を軸に、移行や運営の体制を整えたいとしている。

女子対象、企業が協賛

主将寺井中二年の森谷 采良さん(左)は「練習時間が増えたので、もっとまくなりたいたいという気持ちが高まった」と話す。大会にはこれまで、所属校からしか出場できなかったが、国の方針に沿って県中学校体育連盟は、一定の条件を満たす地域クラブも本年度から、県中学校体育大会や全国中学校体育大会などに出場できるようにした。一目を当てた北本さんは「日本一になれなくても、目指して取り組む心を大事にしたい」と強調する。

企業や団体、個人を対象に、ソフトテニスとなる「応援PARTナー」を募っている。北本和之さん(後列左)が主宰し、新たに発足したソフトテニスの能美ジュニアスターズは能美市粟生町で

る。一口五千元、一PARTナーにつき年間最大十口とし、大会参加費や遠征代などに充当。PARTナーをス



部活地域移行へ

中学生の体験会

小松市野球協会

小松市野球協会は16日、
中学生部活動の地域移行に向
けた取り組みとして、市内
の中学生を対象とした野球
体験会（北國新聞社後援）
を同市弁慶スタジアムで初
めて開いた。写真。
学校側と連携し、希望す

る生徒を受け入れ、競技人
口の維持や教員の負担軽減
につなげる狙いで、ゆくの



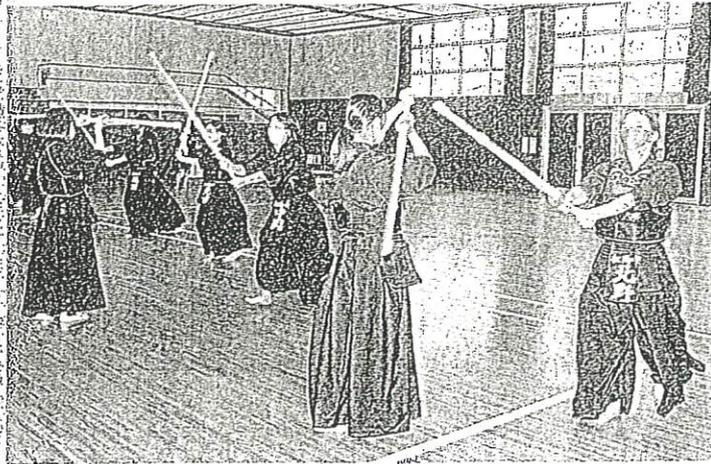
くはチームの育成を目指
す。協会所属の15チームの
選手らが指導を務め、11月
ころまで日曜限定で開く。
16日は市内の8校から42
人が参加し、昨年の栃木国
体で6位に入ったコマニ丁
の選手や監督ら20人から、
投球や守備、打撃の基本を
学んだ。協会の吉田和平さ
ん(53)は、「小松には強豪チ
ームが多数いる。地域で協
力しながら選手を育てる環
境を整えたい」と話した。

中学部活 他校も仲間

小松市「地域移行」モデル專業始まる

中学校の部活動の運営を地域団体や民間事業者と委ねる「地域移行」について、小松市は本年度から、剣道をハンドボールの二競技で、休日と地域の競技団体が指導するモデル專業を始め、初回の十五日、市武道館で、地元剣道団体「小松桜木剣正会」の指導で中学生が練習した。

(井上京佳)



小松桜木剣正会の指導で、複数の学校と合同練習する剣道部の生徒。小松市武道館で。

国は本年度から二年間を改革推進期間として、休日の運動部の地域移行を進めるとしている。市は三月に各競技団体や県中学校体育連盟の代表者と協議会を開き、運動部十六競技のうち、練習環境を整えやすい剣道とハンドボールをモデルにすることを決めた。

当面は市内五校の剣道部員約四百人が参加する。桜木剣正会に所属し、モデル專業で指導を希望した中学校教諭三人が担当する。学校の垣根を越えて交流する生徒や有段者を目指すことを活動目的として、土曜日一回三時間の練習を月二回三回計画している。

初回は三十人が参加し、選手同士が助言し合う時間を設けながら、竹刀の剣先で打つ練習などをした。芦城中学校剣道部主将で三年の林空良さん(17)は、「二

まず剣道から 合同練習「高め合える」

三年生の部員が男女合わせて八人しかいないという、「二人数はいづれもより練習になる」と話した。松陽中三年で副主将の北野ゆずさん(17)は、「試合なら他の学校はライバルだが、練習ならお互いにアドバイスをし、高め合えることを期待した。

部員減少で剣道部がなくなった学校もあり、それでも剣道をやりたい生徒は桜木剣正会など地元の団体で練習している。芦城中学校長で、市剣道協会の岩脇司理事長は、「地域移行が浸透すれば、学校に剣道部がなくても競技を始めやすくなる。競技人口増加も期待したい」と話す。今後は平日の地域移行も目指すが、練習場所への送迎や指導者の確保などが休日以上に難しく、課題があるという。

ハンドボールは三十日から練習を始め、市内五校の部員が、北部と南部に分かれて会場に集まり、市ハンドボール協会が指導する。各会場で年間十五から二十回の活動を計画する。他の競技も随時、休日と地域移行を進めるといって、文化部についても協議が始まっている。

令和5年6月23日(金)開催

白山市中学校部活動の地域連携及び地域クラブの在り方検討会

委員発言（抜粋）

- 実施に向けたロードマップが無いと、我々は何をすればよいのかわからない。意欲的な面、精神的な面が一向に伝わってこない。
- 生涯スポーツと競技スポーツに分かれると思う。
- 指導者的なものにはお金がかかる。大会に参加するにはお金がかかる。
- 中学生の部活動まで指導者が引き受けられるのが課題。
- どういう形、資格、処遇で指導者に携わってもらうか。
- スポーツ少年団に加入する子もここ3年から6年の間に激減する。今後10年間の小学生中学生の人口動態を把握したうえで、検討が必要。
- 白山市では、どの種目を考えているのか、9月からと言われるのは一体何をすると考えているのか。
- 学校の方からこういうことをやりたい、習いたいと希望を言っていただき、文化協会に諮る方が我々もやりやすい。
- 令和7年度までの3年間に確実に移行する期間と捉えればよいのか。それまであいまいな時期があつて、その後もあいまいな時期があると捉えればよいのか。
- 中学校によって、残っている部活動と無くなっている部活動がある。クラブチームとか別のチームに行くとなった場合、子どもや保護者の負担が増えることになる。
- 子ども達がやりたいけど家庭の環境でできない場合が出てくることを子供たち自身がどういう風に思っているのか。
- 子ども達が部活動の地域移行に対しどう思っているのか、アンケートを取ったり、保護者からも意見をもらったりということをやっていたら良い。
- 一律白山市で決めるということではできないのではないかと、中学校ごと、その時その時でやり方を変えていくしかないのではないかと。
- その地域というのが、白山市なのか県内全部で捉えるのか。他市のコーチが市内体育館を使って募集した場合、お金の問題は解消されるのか。
- 強制加入しないということになると、無所属の子が増えるのではないかと。強制としな

いからそれでよし。とするのか。何か対策をするのか。

- 少子化になっている中で、部活動に捉われずに、地域が合同で活動するという柔軟性は良いと思う。
- 指導者のお金の問題や指導者の確保、指導者のレベルの問題などがあり、保護者の立場としては、負担にはなると思うが、地域クラブ、保護者、学校が協力してやっていただけたらありがたい。
- 中学生の全員部活動制で得られる経験はとても良いもの。高校になると、専門的な子や経験者がほとんどで、経験の無い子はほとんど入っていない。中学校もそうになってしまうのではないか。
- 自主性を強く言うと、不参加の子供が増え大事な経験ができる場所が無くなってしまふのではないか不安。積極的ではなくても経験できる働きかけが良いのではないか。
- 協力団体とかの名前が入っているものあれば、地域クラブに移行しやすい。
- 親の送迎など、保護者の負担を考えると子どもが在籍する中学校でやってほしい。
- 親の状況で子どもの選択を狭めてしまうのはかわいそうだなと思う。

中学校部活動の地域クラブへの移行に向けたスケジュール(予定)

令和5年4月 1日	中学校部活動の全員参加の廃止
6月23日(金)	白山市中学校部活動と地域クラブの在り方検討会 開催
6月～8月	地域クラブ、保護者等アンケート調査
7月10日(月)	白山市教育総合会議 ^(※1)
8月22日(火)	第1回白山市中学校部活動と地域クラブの在り方協議会 ^(※2)
9月	休日の部活動の地域移行の実証試験
10月	第2回白山市中学校部活動と地域クラブの在り方協議会
12月	新たな地域クラブの受け入れ態勢を学校に情報提供 ^(※3)
令和6年1月	新入生部活動説明会への情報提供 ^(※3)
令和6年4月	新たな体制での部活動の試行 ^(※3)
令和7年下期	改革推進期間終了後の国が進める環境整備に基づき、更なる検討を進める。

※1 教育総合会議に適時進捗状況を報告し、協議を行う。

※2 令和6、7年度にも白山市中学校部活動と地域クラブの在り方協議会を年1～2回実施する。

※3 12月学校への情報提供、1月新入生部活動説明会への情報提供、4月新たな体制での部活動の試行については、協議会の意見を踏まえた修正を行い令和7年度においても実施。